令和３年１１月２日
環境局環境国際戦略課

COP26 北橋市長発表構成

１　市長講演テーマ

都市間連携を活用した北九州市による脱炭素化のグローバル展開

２　内容（約５分）

（１）北九州市の概要と環境施策（約 1.5 分）

①はじめに

※ 市長自己紹介。

②公害克服の経験と環境施策

- 北九州市は、日本を代表する産業の町として発展。
- 一方で、急速な産業発展に伴い、深刻な公害を経験したが、市民、企業、行政の協力により公害を克服。
- 公害克服の実績を活かし、北九州市は先進的な環境政策を多く立案。

③モデル都市の選定からゼロカーボンシティ宣言まで

- 公害克服の実績は国内外で広く知られ、多くの事業でモデル都市に。
- 北九州市は、昨年１０月に「ゼロカーボンシティ宣言」。

（２）北九州市の脱炭素に向けた取組み（約 1.5 分）

④北九州市の目指すゼロカーボンシティ（削減目標）

- 2050 年における実質ゼロに向け、2030 年度までに市内の温室効果ガス排出量 47%以上削減（2013 年度比）という目標を設定。
- 産業都市・北九州市が、産業界と連携し、エネルギーやイノベーションの脱炭素化を進めることが、アジア諸都市にとっても非常に良いモデル。

⑤「再エネ 100%北九州モデル」の構築と市内外への拡大

- 具体的な取組みの１つが「再エネ 100%北九州モデル」。
- このモデルでは、まず市内の公共施設の電力を市内で発電された再生可能エネルギーで全て賄うとともに、第三者保有方式による普及促進を図り、市内全域、そして市外、海外へと拡大。

（３）脱炭素ドミノを海外へ展開（約２分）

⑥本市の国際協力事業とアジア低炭素化センター

- 北九州市は、公害克服の経験を活かし、多くの国際事業を展開。
- 2010 年には「アジア低炭素化センター」を開設し、アジアの都市と連携して多くのプロジェクトを実施。

⑦プノンペンの奇跡

- （これまでの本市の国際協力事業の代表例として、）カンボジアの首都・プノンペンでは、アジアで数少ない「水道水が飲める町」に。
- これは「プノンペンの奇跡」と呼ばれている。

⑧ベトナム・ハイフォン市との協力関係

- また、ハイフォン市での取組も代表例の１つ。
- 北九州市とハイフォン市は、２０１４年に姉妹都市となり、環境分野を中心とした事業を経て、強力なパートナーシップを形成。

⑨ハイフォン市との都市間連携事業（JCM 採択案件）

- こうした中、北九州市は「再エネ 100%北九州モデル」を、早速ハイフォン市で展開。
- この事業は、環境省の支援を受け、ハイフォン市での脱炭素化を推進。
- 北九州市の取組が、再エネ普及に向けた新しいビジネスを創出し、ベトナム全土での環境配慮型工業団地整備の際のモデルとなることを期待。

⑩今後の海外展開事業に向けて

- 北九州市は、今後も本市の環境技術を海外に展開することで、脱炭素化をはじめとした課題の解決をサポート。
- 世界共通の課題解決をサポートすることで、世界の SDGs 達成に貢献。